

科名 消化器科 消化38
 対象疾患名 肝細胞がん
 プロトコール名 ミリブラ動注

R p	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	...	15	...	28
1	点滴注	メイン	生食	500mL	ルートキープ 全て投与							
2	点滴注	側管	グラニセトロンバッグ	3mg	30分かけて							
3	肝動注	メイン	ミリブラ ミリブラ動注用懸濁液	60mg/m ² 1Vあたり3.5mL	5分かけて							
4	点滴注	メイン	ソルデム1	500mL	3時間かけて							
5	点滴注	メイン	ソルデム1	500mL	3時間かけて							

1クール = 28日

～ MEMO ～

1日1回肝動脈内の挿入されたカテーテルより投与。

上限は1回にミリブラ120mg(6mL)まで。

くり返し投与する時は、4週間以上の観察期間をおくこと。

ポリカーボネート製の三方活栓や延長チューブを使用しないこと。

DEHPフリーのチューブを使用のこと。

発熱がほとんど全例に現れるため解熱剤の投与等適切な処置を行うこと。

< 調製 >

必ず、ミリブラ動注用懸濁液に溶解する。

懸濁液は用時調製し、調製後は速やかに(1時間以内に)使用すること

ミリブラ溶解後、バイアルから採取する際は粘度があるため約3mLしか採取できないので注意すること。

ミリブラ1Vにつき1本の5mLのロック式シリンジにて調製する。